



## 一人ひとりの手で 自然の恵みを受けて有機農業を

小田 大介さん (おだ だいすけ)  
 合同会社自然農業社 代表

農山漁村における地域の活性化や、個性的で魅力ある地域づくりの優れた活動を紹介するシリーズ。

今回は「わが村は美しく北海道」運動第10回コンクールで奨励賞を受賞した「合同会社自然農業社」代表の小田大介さんにお話を伺いました。

### 《農業と福祉の出会い》

社警町は北海道の南西部に位置し、洞爺湖、有珠山、昭和新山など雄大な自然に囲まれ、温泉など豊富な天然資源に恵まれた町です。基幹産業は農業と観光業になります。

小田さんは東京出身で、元は海上保安庁で勤務していました。最初の赴任先が網走で、休日とかにやっていた家庭菜園が楽しみながらできて、今思えばこのことが農業をやりながら北海道に住んでみたいと思うひとつのきっかけになったそうです。どんどん農業をやりたいという気持ちが強くなり、海上保安庁を辞め、富良野町、伊達市と農業研修を2年間受け、農業について勉強をしました。当時、子どもがアトピー性皮膚炎になったこともあり、農業をやるなら有機農業に取り組みたいと考え、その時に農業法人「たつかーむ」に就職しました。そこは有機農業はもちろん、障がいのある人たちと一緒に仕事をする職場で、初めて福祉に携わることになりました。いずれは独立したいと考え、2015年に畑部門として引き継ぐ形で「合同会



大豆の袋詰め作業

社自然農業社」就労継続支援A型事業所として独立しました。現在約30名の在籍（スタッフ4名、利用者26名）の内、1日10～15名で作業をしています。

北海道での農業は通年雇用が難しいですが、加工品として切り干し大根や豆類の選別など冬でも作業ができる環境を提供して雇用形態を確立し、それぞれの個性に合った作業をやることで、障がいがある方でも無理なく働くことができています。障がい者の自立を支援する手助けができるのが農業だと改めて思い、小田さん自身もそして利用者も、お互いやりがいを感じながら作業をしています。

### 《自然を活かした有機農業》

主に、大豆・黒豆・あずき、ズッキーニ、にんにくなどを栽培し、大豆の8割は本州からの注文で出荷されます。とても美味しいと好評です。

有機農業は土づくりから始まります。自然との調和を大切にして、化学肥料や農薬に頼らず、そこに生息するさまざまな生き物と共生しながら、2年以上かけて環境を整えます。近年、気候変動が激しいため、作付けの時期をずらしたり、気候に合ったやり方を考えて作業をしています。とても手間ひまがかかる仕事ですが、作物が育っていく過程が解るのが何よりも楽しいです。これからもみんなで助け合いながら、安心・安全・美味しい農作物を作っていきますとお話ししてくださいました。今年は、露地栽培でのオクラづくり、サツマイモの干しいもづくりに挑戦！



有機大豆

※当協会ホームページ、「わが村は美しく北海道」運動第1～9回受賞団体の活動概要をまとめた冊子『生産空間の活性化に資する地域事例集』をご覧ください。

